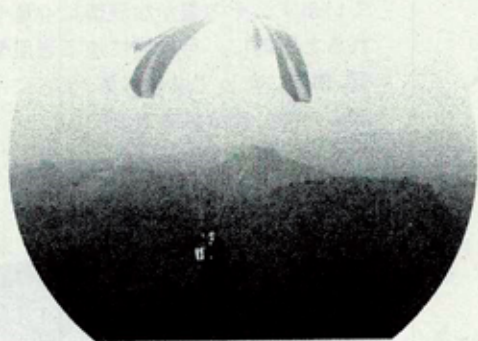


(別紙資料)

# やばけい遊覧の 旅に出かけよう!



「やばけい遊覧 ～大地に描いた山水絵巻の道をゆく」



耶馬溪は珍しい形をした岩々が連なる溪谷です。その山水画のような風景は詩人や画家の憧れでした。人々は昔から岩を使って仏、石橋、庭園等優れた作品を生み出し広大な大地に配置していきました。それらは大正時代に回遊路でつながり、まるで絵巻物のような世界ができあがりしました。さあ、空から、谷から・・・耶馬溪を遊覧する旅に出かけましょう。



吉田初三郎作『天下無二 耶馬全溪の交通図絵』[中津市教育委員会蔵]

## 中津の歴史と文化

中津は古くは豊前国下毛郡に属し、古代仏教文化が花開いた地で、耶馬溪の岩窟には仏が安置されていきました。中世には各地に山城が築かれ、戦国時代に黒田官兵衛によって整備された城下町は、その後、細川氏・小笠原氏・奥平氏と領主をかえながら、豊前国の政治・経済の中心地として発展していきました。明治9年(1876)に大分県の一部になって以降、数度にわたって合併が行われ、平成17年に現在の中津市となりました。また、中津は、からあげやハモ料理、そば等の「食」や耶馬溪を中心とした「温泉」等も豊かで、耶馬溪観光と合わせて楽しむことができます。



ハモ料理

## 玖珠の歴史と文化

『豊後国風土記』によると、「玖珠」という地名は、大きなクスの木があったことに由来しています。平安時代後期から戦国時代にかけて、この地は清原氏という武士が支配していました。関ヶ原の戦い後、菜島氏(のちに久留島氏)が領地を与えられ、江戸時代を通じて、森陣屋を中心に支配しました。明治時代になり大分県に組み入れられた後、何度か合併が行われ、現在の玖珠町となりました。また、おいしいと全国的にも評価の高い、豊後玖珠牛は玖珠を代表する特産物です。毎年5月5日のこどもの日には日本童話祭が開催され、全国から多くの人を訪れます。



伐株山

つながった

# 津・玖珠



## 1 羅漢寺・古羅漢

羅漢寺には、室町時代に彫られた日本最古の五百羅漢石仏をはじめとして、2000体以上の石仏があるとされています。その豊かな表情に心癒やされると同時に、目の前に迫る岩肌や絶壁、鎖をつたって進む崖等、まさに「岩窟の寺院」を体感できます。



## 2 一目八景

国名勝

深耶馬溪の中心地です。八方を切り立った奇岩に囲まれ、溪谷の美しさを楽しめる場所です。近くには温泉やそば屋さんもあり、耶馬溪観光のメインスポットとなっています。



## 3 猿飛千壺峡

(耶馬溪猿飛の甌穴群)

国天然記念物

川の流れてによってつくられた大小たくさんの甌穴（侵食によってできる穴）が約2kmにわたって広がり、自然の素晴らしさを味わうことができます。



## 4 森城下町

深耶馬溪を抜けると、日本一小さな森下町と言われる森城下町がお出迎え。100年前に耶馬溪観光の出入口としてにぎわった町には、明治末～大正時代にかけての伝統的な建物が残っています。



## 5 旧久留島氏庭園

国名勝

小藩だった森藩は、城を持つことができなかつたため、城のような石垣と大きな石を配置した庭園をつくりました。庭園の背後には大岩扇山（国天然記念物）が見え、庭園と一体となった素晴らしい景色が広がります。



## 6 旧豊後森機関庫

国登録有形文化財

玖珠町は、かつて鉄道の町として発展し、久大線の主要な駅である豊後森駅が置かれました。そのシンボルが旧豊後森機関庫で、現存する九州唯一の扇形機関庫です。すぐそばには、蒸気機関車が設置されています。